

地方独立行政法人長野県立病院機構 平成25年度年度計画の概要

長野県立病院機構

○ 概 要

独法化から3年目となる24年度計画では、「足腰の強い経営のシステム（基盤）づくり」をテーマとして、これまでに見えてきた課題や自らの使命・責務を見据えるとともに、独法化で得た経営の自由度を最大限活用しながら、各分野（医療サービス、経営、人材の確保・育成など）における当機構独自のシステム（基盤）づくりを中心とした取り組みをスピード感を持ちながら進めてきた。そのことで、医療スタッフの充実に伴う病院機能の強化・拡充が図られ、医業収益の増加に結びついたほか、地域医療機関との連携強化、各種プロジェクトチームの活動の本格化などを始めとして、多くの分野で、着実な成果につながりつつある。

25年度計画は、第1期中期計画の仕上げの段階にあることを意識しながら、様々な課題の克服などに引き続き取り組む一方で、「地域の医療ニーズに着実に応える病院機構」をテーマに、充実された人的資源や、強化・拡充された医療機能などを最大限に発揮・活用しながら、県立病院機構としての使命の全うするために、職員一人ひとりが今一度原点に立ち返り、決意を新たに取り組む旨を定めることとした。

○ 平成25年度年度計画のポイント

(1) 県立病院の使命を果たすために必要な医療機能強化への取組

→南7階病棟の一部を他病棟の後方支援病棟として再開（須坂）、多職種によるチーム医療を外来診療などで構築・展開（駒ヶ根）、リハビリ機能の充実（阿南）、リハビリ機能の強化・充実（木曽）、小児がんの診療機能の向上（こども）等

(2) 地域の医療ニーズに応えるきめ細やかで質の高い医療の着実な提供

→内視鏡検査の積極的な実施と内視鏡センターの機能拡充（須坂）、専門・政策医療機能の維持・強化（駒ヶ根）、小児科医・循環器内科医の増員、糖尿病治療の充実（木曽）、各種医療機能のセンター化、小児在宅医療の推進（こども）等

(3) 創造的な医療人材の育成策の展開による県内医療水準の向上への貢献

→・5病院の特色を生かした信州型総合医育成のためのプログラムの作成
（研修センター）
・スキルラボなどを活用した県内医療従事者の質の向上への貢献（ ” ” ）
・人材確保と採用事務を一体的に担う体制の整備（本部）
・「新木曾看護専門学校（仮称）」の開設準備の本格化（本部）

(4) 地域医療機関との連携等の強化及び情報化の推進

→・在宅医療連携拠点事業による医療・福祉ネットワークの構築等（こども）
・平成25年10月の電子カルテシステム等の運用開始（阿南）
・「信州メディカルネット」を活用した電子カルテデータ等バックアップシステムの構築（全病院及び本部）等

(5) 様々な機会を捉えた情報発信の充実と県立病院ブランドの確立に向けた取組

→・医療関係者へのシミュレーション・トレーニングセミナーの開催（研修センター）
・テレビ番組の放映、各種媒体を活用した積極的な広報活動の継続
（全病院及び本部）

・県内各地で「公開講座」を引き続き開催（全病院）等

(6) 病院経営体制の強化及び業務運営改善などに向けた取組の継続（全病院及び本部）

→・医薬品・診療材料の採用品目の統一化及び一括契約対象の拡大
・各種プロジェクトチーム、診療情報管理士連絡会等の活動の継続
・必要な診療・会計データの参照・分析等が可能なシステム構築の継続 等

○ 計画の主な内容

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 地域医療、高度・専門医療の提供

須坂病院	<ul style="list-style-type: none"> ・④ 内視鏡検査の積極的な実施と内視鏡センターの機能拡充 ・④ 南7階病棟の一部再開による病院の機能強化 ・専門外来などによる多面的な医療の提供 ・土曜日のリハビリテーション・栄養指導の実施 ・医師の確保 ・感染症医療の提供
こころの医療センター 駒ヶ根	<ul style="list-style-type: none"> ・精神科救急医療の提供 ・④ 医療機能（専門・政策医療）の維持・強化 ・④ 多職種によるチーム医療の構築・展開による外来診療の充実
阿南病院	<ul style="list-style-type: none"> ・救急患者の受入体制の充実 ・リハビリ機能の充実 ・へき地医療の提供 ・④ 町村からの乳児健診の受託、視能訓練士の派遣
木曽病院	<ul style="list-style-type: none"> ・小児科医及び循環器内科医の増員 ・④ 糖尿病治療の充実 ・④ リハビリテーション機能の強化・充実 ・へき地医療の提供 ・画像診断機能の充実 ・DMAT（災害派遣医療チーム）
こども病院	<ul style="list-style-type: none"> ・④ 遺伝子関連検査機能の強化と遺伝カウンセリング・フォローアップの推進 ・④ タンデムマス法検査の実施 ・④ 在宅医療連携拠点事業による医療・福祉ネットワークの構築 ・④ 極低出生体重児フォローアップ事業の推進 ・④ クラニオ・漏斗胸・血管奇形センター設置の検討 ・④ 口唇口蓋裂センターの開設 ・④ 鼠径ヘルニア等を対象とした日帰り手術（短期滞在手術）の実施 ・④ 出生前診断に関する遺伝カウンセリングの充実・強化の検討 ・④ 小児がんの診療機能の向上

災害医療の提供及び防災対策	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の適切な医療活動の実施 ・DMAT（木曽病院） ・必要な災害用医薬材料品等の備蓄 ・「災害時対応マニュアル」の充実や見直し ・「信州メディカルネット」を活用した電子カルテシステムデータ等のバックアップシステムの構築
---------------	---

2 5病院のネットワークを活用した医療の提供及び地域医療への貢献

（地域医療機関との連携等）

- ・飯田市立病院との看護師相互派遣研修による連携の充実（阿南病院）
- ・地域の診療所の看護師との「へき地看護研究会」を通じた連携強化（阿南病院）
- ・こども病院の助産師を木曽病院へ派遣し助産師への教育体制を充実
- ・地域産科・周産期施設との出生前心臓診断ネットワークを構築し、インターネットを活用した地域拠点病院間の遠隔診断を推進（こども病院）（再掲）
- ・**④** 3Dモデル造形センターは、地域の医療機関・医療関係教育機関の利用にも対応し、医療水準の向上に貢献（こども病院）
- ・地域の医療機関の職員が参加できる小児リハビリテーションの研修会・学習会の開催（こども病院）
- ・**⑧** 医師や臨床心理技術者などを県内10圏域ごとの研修会などに派遣する県からの受託事業により、県内の発達障害診療体制の充実に寄与（こころの医療センター駒ヶ根・こども病院）
- ・地域医療機関へのスキルラボなどの貸与及び同機関の職員が参加可能なシミュレーション研修等の充実（研修センター）

（情報の共有化と活用）

- ・こども・須坂・信州大学医学部附属・長野赤十字病院間で実施中の「信州メディカルネット」を利用した電子カルテの相互参照について他の県内医療機関にも拡充
- ・阿南病院では平成25年度の電子カルテシステム等の開発に併せ、平成26年度からの「信州メディカルネットへの参画を目指す

3 県民の視点に立った安全・安心な医療の提供

（医療安全対策）

- ・医療安全への取組み状況を互いに実地確認し合う医療安全相互点検を継続実施
- ・他県のこども病院との相互査察の実施（こども病院）
- ・北信地域の医療機関との協働や情報共有などにより、地域の感染対策水準の向上に寄与（須坂病院）
- ・県で唯一の日本環境感染学会認定教育施設としての実績を生かし「北信ICT連絡協議会」の代表理事、事務局を務め積極的に関与（須坂病院）
- ・医療安全の実践指導者養成のための「体験型」研修の引き続いての実施
- ・5病院共通の医療安全チェックシートを活用した自己点検などにより課題の把握や改善策を立案
- ・**⑨** インシデント事例分析手法などをグループワーク形式により学習する医療安全管理者学習会を開催

(患者中心の医療の実践)

- ・入院患者に対する土曜日のリハビリテーション・栄養指導の継続実施
(須坂病院) (再掲)
- ・質の高い医療・看護の提供のため7対1の看護体制の維持 (須坂病院)
- ・**拡** 多職種によるチーム医療の構築・展開による外来診療の充実
(こころの医療センター駒ヶ根) (再掲)
- ・多職種チームによる訪問ケアの実施 (こころの医療センター駒ヶ根) (再掲)
- ・**新** 電子カルテ導入に合わせ院外処方箋の発行を推進するとともに、薬剤科業務を入院薬剤管理指導などにシフトさせ、安全な薬物治療の推進に寄与 (阿南病院)
- ・入院患者に対する休日も含めた急性期リハビリの継続実施 (木曾病院) (再掲)
- ・先天性心疾患の術後成人患者対象の専門外来の開設 (こども病院) (再掲)
- ・セカンドオピニオン外来の充実 (須坂病院、こども病院)

(電子化の推進)

- ・平成25年10月の電子カルテシステム等の円滑な稼働に向けた準備 (阿南病院)
- ・「信州メディカルネット」を活用した電子カルテシステムデータ等のバックアップシステムの構築 (再掲)

(患者サービスの一層の向上)

- ・患者及びその家族を支援するチャイルド・ライフ・スペシャリスト及び医療者と中立的な立場で対話を促進する医療相談員 (医療メディエーター) の配置 (こども病院)
- ・テレビCMの活用等病院機構及び県立病院の積極的な広報の実施
- ・**拡** 来院者のサポートを行うフロアアテンダント、外来の総合案内担当者の配置
(こども病院)

(地域との協力体制の構築)

- ・**新** 地域住民の健康管理のための「健康管理センター」、総合医・家庭医を育成する「へき地医療研修センター」、認知症対策のための「認知症相談室」をそれぞれ設置
(阿南病院)
- ・木曾地域の自然を活用した「木曾路の森セラピードック」の推進 (木曾病院)
- ・**新** 住民との連携を強化し小児医療を守るための様々な活動を展開する「こども病院サポーター制度」を創設 (こども病院)
- ・**新** 在宅医療連携拠点事業として、研修会などを開催するとともに、支援チームの派遣などより、全県的な医療・福祉ネットワークの構築を推進 (こども病院)
- ・病院運営協議会、病院モニター、患者家族会からの提言を病院運営に反映

4 人材の育成・確保と県内医療水準の向上への貢献

(研修体制の構築)

- ・ ⑨ 信州型総合医の養成に寄与する5病院の特色を生かしたプログラムを作成
(研修センター)
- ・ ⑨ 看護師のキャリア開発ラダーレベルに応じた研修の実施と各病院への支援
- ・ へき地医療研修センターの開設準備 (阿南病院)
- ・ スキルラボを使用したシミュレーション研修の実施 (研修センター・5病院)
- ・ ハワイ大学医学部SimTikiシミュレーションセンターにおけるシミュレーション教育教授法に関する研修の実施 (年2回) 及び同大学教授を招聘し、県内外の医療関係者などを対象とした「シミュレーション・シナリオ・トレーニング」に関するセミナーを開催 (研修センター)
- ・ 県の「信州医師確保総合支援センター」分室として、修学金貸与学生等のキャリア形成支援を行うなど、県の医師確保対策を支援 (研修センター)
- ・ ⑨ 事務職員を対象とした体系的な研修プログラムの整備及び集合研修等の通年での実施 (機構本部・5病院)

(医療従事者の確保)

- ・ 人材確保と採用事務を一体的に担う体制を整備 (機構本部)
- ・ 看護学生に対する修学資金貸与制度の積極的な活用
- ・ 阿南・木曽病院について、医療技術系学生向けの修学資金貸与制度の活用を検討
- ・ 医療技術職員については、「人事・研修の基本方針 (平成24年3月策定)」に基づく各職種の専門研修の充実などを検討

(医療関係教育機関への支援)

- ・ 地域医療機関へのスキルラボ等の貸与及び地域医療機関の職員が参加できるシミュレーション研修等の充実 (研修センター) (再掲)
- ・ 手術前のシミュレーション等が可能になる3Dモデル造形センターについては、地域の医療機関及び医療関係教育機関の利用にも対応 (こども病院) (再掲)

(医療に関する調査研究)

- ・ こども・須坂・信州大学医学部附属・長野赤十字病院間で実施中の「信州メディカルネット」を利用した電子カルテの相互参照を他の県内医療機関にも拡充 (再掲)
- ・ 県立病院の取り組みや健康情報等を県民にお知らせする「公開講座」の積極的な開催

(木曽看護専門学校(仮称)の開設準備)

- ・ 平成26年4月の開設に向け、中期計画及び定款の変更などについて県関係機関と連携して適時に実施の上、国等に対し設置申請を行うとともに、新校のPRや教員の確保・養成、校舎・設備等の整備などを行い、学生受け入れの体制を整備

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 組織運営体制の構築

(柔軟な組織・人事運営)

- ・医療機関に適した病院機構独自の人事制度についての検討
- ・医療サービスの内容・施設基準・収支見通しを十分分析の上、効率的な職員配置に努力
- ・人件費の医業収益に対する比率（人件費率）の動向を注視し、その低減に努力
- ・事務職員及び医療技術職員のプロパー化を計画的に進めるための平成25年度以降の採用計画を作成（再掲）
- ・病院運営上の課題に対応するため、病院間の横断的なプロジェクトチームを積極的に活用

(職員満足度の向上)

- ・院内保育所「カンガルーのぼっけ」の充実（須坂病院）
- ・職員の心身の健康の保持増進などのために、健康相談を充実し、健康づくり等心身の健康に関する研修を実施
- ・**新** 福利厚生の一環として県立5病院合同のスポーツ大会を開催

(人事評価制度の構築)

- ・医師の業績評価の導入に向けて引き続き制度を検討
- ・医療技術職については「人事・研修の基本方針」に基づき制度の見直しの検討を継続

(機構本部のあり方の検討)

- ・機構本部の機能を高めるための検討などを行うほか、その所在地については、現在の長野県庁から外部への移転を前提とした検討を継続

2 経営体制の強化

(病院運営への参画)

- ・月次決算など経営指標について職員への周知を徹底
- ・全職員を対象とする病院経営に関する研修会の実施
- ・業務改善や増収・経費節減策に関する職員提案制度の継続実施

(効率的な業務運営)

- ・機構全体で年度計画を達成するための行動計画（アクションプラン）を策定し、PDCAサイクルにより実施

(経営部門の体制強化)

- ・「事務部門強化に係る平成25年度計画」に基づく事務部門の体制強化
- ・事務職員のプロパー化の推進
- ・DPC請求の精度向上のための院内検討体制の整備（須坂病院・木曾病院）
- ・DPCの平成26年度導入に向けて準備（こども病院）
- ・信州大学医学部附属病院などとの勉強会を通じ、DPC調査データの分析力・解析力を向上

3 業務運営の改善

(業務運営に必要な指標の把握と活用)

- ・診療情報管理士連絡会が中心となり、クリニカルインディケーター（臨床評価指標）等の整備及び導入を推進
- ・ベンチマークとする他病院の様々な指標や財務状況と比較しながら自院の経営状況を把握（県立5病院）
- ・人件費の医業収益に対する比率（人件費率）の動向を注視しその低減に努力（再掲）

(効率的な予算の編成と執行)

- ・経営ビジョンや年度計画、長期的な投資計画や収支見通しに基づき各県立病院が責任をもって予算原案を作成
- ・**④** 医業未収金については、「長野県立病院機構未収金対応方針」などに基づき、発生の未然防止や回収などに努める
- ・経費節減のための検討チームを積極的に活用し、経費（費用）節減に結び付く取り組みなどを実践
- ・医薬品等の購入については、県立病院間の情報共有及び客観的なデータに基づく交渉などにより経費を節減
- ・導入後の医療機器の費用対効果を医療器械等審査部会で検証し、活用状況が見込みを下回っている場合は、利用率向上の検討を実施（再掲）
- ・施設設備については、修繕改良計画を定期的に見直すことで、計画的な予算編成と設備の長期利用を図る

(効率的な内部監査の実施)

- ・**⑧** 内部監査を効果的に実施するためのチームの立ち上げ及び監査の実施

第3 予算 (略)

第4 短期借入金の限度額

- 1 限度額 20億円
- 2 想定される短期借入金の発生理由 賞与の支給等、資金繰り資金への対応

第5 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときの計画 なし

第6 剰余金の使途 病院施設の整備、医療機器の購入等に充てる

第7 その他県の規則で定める業務運営に関する事項

(阿南病院耐震化事業)

平成25年6月の新本館棟の供用開始に向けて工事を進め年度内に全事業を完了